

科目名	開講時期	必修・選択	科目区分	単位（時間）	科目責任者	
血液検査学実習	2年次	必修	実習	1単位（45時間）	五十嵐 康之 ※	
授 業 概 要						
自動分析機器を併用しながら、用手法を習熟することで基礎を確実に学び、機器の操作法、検査の測定原理と検査所見から臨床的意義を理解し、疾患を類推できる。						
到 達 目 標						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・用手法から基本技術をマスターする。</li> <li>・自動分析機の操作法、測定原理を正しく理解し、誤差要因を類推できる。</li> <li>・血球を正確に観察できる。</li> <li>・血球を観察し正しく分類・判定できる。</li> <li>・各種検査の理論及び臨床的意義を説明できる。</li> <li>・検査の基準値を列挙できる。</li> <li>・検査結果から疾患を分類・類推できる。</li> </ul>						
実務経験のある教員						
五十嵐 康之、星野 ちなみ：受託臨床検査施設及び病院での臨床経験を踏まえ、血球数算定法から血液像・骨髓像の判読法、自動分析機を用いたデータ解析技術を概説する。						
回	学 習 内 容				担当教員	
1-4	末梢血薄層塗抹標本作成 普通染色：May-Grünwald 染色、Giemsa 染色、May-Grünwald-Giemsa 二重染色 末梢血液像の観察				五十嵐 康之 ※ 星野 ちなみ ※	
5-6	白血球百分率の算定 網赤血球数算定：Brecher 法					
7-8	赤血球浸透圧抵抗試験：Parpart 法 赤血球沈降速度検査：Westergren 法					
9-12	赤血球数算定：視算法 ヘマトクリット測定：マイクロヘマトクリット法 ヘモグロビン濃度測定：ラウリル硫酸ナトリウム法 赤血球指数（MCV、MCH、MCHC）の計算と解釈					
13-14	自動血球計数装置測定					
15-19	ペルオキシダーゼ染色 エステラーゼ染色：特異的 EST 染色、非特異的 EST 染色、 フッ化 Na 阻害性非特異的 EST 染色、EST 二重染色 好中球アルカリフォスファターゼ染色：陽性率、陽性指数算定					
20-23	白血球数算定：視算法 好酸球数算定：直接算定法 血小板数算定：Brecher-Cronkite 法（直接法）					
学 習 方 法						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書及び配付資料をもとに復習をするとより理解できる。</li> <li>・測定結果の分析（考察）するためには、実習内容や臨床的意義をしっかりと理解すること。</li> <li>・不明な点は後回しにせず、速やかに解決すること。</li> </ul>						
評 価 方 法						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習試験等（60%）及びレポート（40%）により評価する。</li> <li>・レポートは評価基準に従い評価し、これを満たさない場合は評価しない。</li> <li>・再試験は実習試験のみ行い、レポート評価と合わせて再評価する。</li> <li>・やむを得ない事由による欠席の場合は、補習実習を行う。</li> </ul>						
先 修 科 目						
血液検査学 I						
教科書、参考書						
〔教科書〕						
最新臨床検査学講座 血液検査学 第2版		奈良信雄 他	医歯薬出版			
ビジュアル臨床血液形態学 第4版		平野正美 他	南光堂			
病気がみえる vol.5 血液 第2版		土屋達行 他	MEDIC MEDIA			